

演題「福祉から自由になる」講演会（令和4年3月13日開催）

講師 荒井和樹（中京学院大学・全国こども福祉センター）

子どもの虐待防止ネットワーク石川主催

【アンケート結果】

大変良かった 59%

良かった 41%

普通 0%

あまり良くなかった 0%

良くなかった 0%

わからない 0%

〈自由記述〉

講演会の感想やご意見などご自由にお書きください（12件の回答）

・子ども目線の支援をされていて素晴らしい活動だと思います。

・昨年現場を離れ、今は大学院で、支援に内包する権力性や、クライアントの人としての尊厳を奪う暴力性、クライアントと支援者の非対称性、対等な援助関係とは？といったことを研究テーマとしています。荒井さんのお話は、自分の関心ととてもリンクしていて、かつ、そうしたことを平易な言葉でお話してくださることがすごいなと思いました（難しい専門用語を使った時点で非対称性が増すと思うので）。

・路上で出会った人たちに生活できる場の提供もされているのかと思っていましたが、そうではないこと、出会う時間にも配慮されての活動に驚きました。福祉から自由になるって意味に気付かされました。あらたな言葉として考えさせられました。ありがとうございました。

様々な背景を抱える子どもたちがいることから、色々な手立てという点で参考になりました。ありがとうございました。

さまざまな制度が「家庭」を単位にすることが多いなか、福祉は、「個人」を単位に行われる必要があると感じました。

子どもの立場に立って考えるためにとっても大切なことを気づかせられたと思いました。これまでの常識を疑う・福祉は正義という思い込みが、〇〇べき論など支援者の慢につながるとことば支援活動に関わる市民だけでなく、行政の方々に知ってもらえたらと思いました。また、子どもには力があると信じる荒井さんの言葉がとても印象的でした

福祉とは？ 主体は当事者、確かに。上から目線では人は心を開かない。特に子どもは厳しく見ていること

を知る。再認識をしました。

コロナ禍での企画、準備ご苦労様でした。

子どもの気持ちをわかっているように思っていましたが、いつの間にか大人目線でしかなかった事に気づきました。

一人での活動から始めたと知り驚いた。私は組織が苦手だから寄り添い活動は今後も自分流で地道にやり続ける。

路上で出会った人たちに生活できる場の提供もされているのかと思ってましたが、そうではないこと、出会う時間にも配慮されての活動に驚きました。福祉から自由になるって意味に気付かされました。あらたな言葉として考えさせられました。ありがとうございました。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。他県からの参加を可能にしてくださり、感謝しています。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

今回のお話を聞く前と終わってから、どのようにお気持ちが変わりましたか（17件の回答）

その支援は押し付けになっていないか、子どもの尊厳や自由が奪われていないか。
子どもが求めている本当の支援のあり方を深く考える必要がある。 と思いました。

同じようなことを考えていたので、先に行動に移されている方のお話を伺えて勇気づけられました。

情報提供、ケア。言葉や内容の違いを改めて感じました

子どもは守られる存在であるという大人(支援する側)の勝手な思い込みがあることが改めて感じました。

〇〇してあげるということはこちらの自己満足で終わることがあることを知った。相手に求められる援助でなければ意味がない。

全てのことで愛着形成がもう少しうまくいってたらなあ、と不甲斐なく思う。これまで通り草の根運動をしていく。

押しつける善意、福祉サービスもあることを知りました。

差し入れのお菓子を処理するのが大変とは初めてお聞きしました。そういう細かなことは当事者に聞か

ないと分からないものだと感じました。

福祉が支援を必要とする人を傷つけることもある、ということを忘れずにいたいと思いました。

今までの事を再確認できました。

自分が活動をするときに、子ども（だけでなく大人もそうですけど）の尊厳を傷つけるような言動がないか心して臨みたいと改めて思いました。

まずは、今の時代を生きる対象を理解しないと意味がないと実感した。

社会全体の仕組みに大人たちは子供を何とかのせようとしているが、その仕組み自体がどうなのかを今一度考えていかなければいけない。と思いました。